

リヒャルト・ワーグナーとヨーロッパ近代 Richard Wagner and European » Moderne 《

プロジェクト代表者： 池上 純一 (教養学部・教授)

Junichi IKEGAMI (Faculty of Liberal Arts, Professor)

平成18年度研究プロジェクト経費の支給を受けて取り組んだ「リヒャルト・ワーグナーとヨーロッパ近代」研究の1年目として、以下の成果を挙げることができたので報告する。

- 1 19世紀を代表する音楽家リヒャルト・ワーグナーの日常生活はもちろん、多彩な人的交流の記録を収め、思索と創作の軌跡を跡づける第一級の資料である『コジマ・ワーグナーの日記』の第1巻を翻訳し、詳細な注解と解題論文を付して刊行した(埼玉大学名誉教授・三光長治、翻訳家・池上弘子の両氏と共訳、平成19年1月20日、東海大学出版会)。
- 2 ワーグナー中期の作品『ニュルンベルクのマイスタージンガー』について、文献学的批判にもとづいて確定したテキストを翻訳し、楽理的および演劇的見地からの研究の成果を盛り込むとともに、歴史的背景や作品の成立過程に関する解題論文を付した対訳書『対訳 ニュルンベルクのマイスタージンガー』を刊行した(日本ワーグナー協会監修、慶応義塾大学教授・三宅幸夫氏と共編訳、平成19年5月10日)。

以上の成果に結実する研究の過程で、とりわけ歴史的背景に関する注解、解題の精度向上において、本研究プロジェクトによって購入した Brockhaus Enzyklopädie digital をはじめとする電子化された歴史資料が大いに寄与したことを報告するとともに、今回の助成による成果を今後予定される研究に生かしたい。

→